

1 学校教育目標
(1) 誠実さと奉仕の精神を持ち、高い志を掲げ、他者と協働して集団や社会に貢献できる生徒の育成 (2) 文武両道に励み、物事に屈しない強い確かな意志と逞しい精神力を身につけた生徒の育成 (3) 自ら模範となり主体的に学習や課題解決に取り組む豊かな知性と感性を備えた生徒の育成

2 本年度の重点目標
(1) 教育スローガン 「健康・礼儀・努力」～何事にも一生懸命頑張る玉附生～ 健康：健やかな体、豊かな心(読書)、確かな学力 礼儀：礼に始まり礼に終わる(校門一礼)、挨拶、時間厳守、掃除、感謝 努力：努力に勝る天才なし、目標達成、感動、笑顔 (2) 教育目標の実現に向けて テーマ：夢実現・未来への挑戦～Challenge Your Self-will～ ア 玉名高等学校附属中学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立 イ 教師の授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導 ウ 日頃からの職員間のコミュニケーションによる学校改革の推進 エ 特別活動(生徒会・部活動等)を生かした、自主性、創造性、協調性及び奉仕の精神などの育成 オ 地域・保護者との連携 カ 読書活動の推進等、言語環境の整備

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の魅力化	併設型中高一貫教育校としての取組の充実	生徒・職員・保護者が、学校の魅力について明確に表現できる教育実践を重ねる。	①教育実践の内容と育てたい資質・能力を明確にして取り組むことで、生徒・職員の達成感につなげる。 ②学校行事などの高校生との交流による学びについて整理する。	B	【成果】 育てたい生徒の姿を共有して、教育実践を行うことができた。 高校生の姿を間近で見ることで、その姿を中学生が目標とする機会となっている。 【課題】 中高一貫教育校としての取組をPDCAで振り返ることが限定的であった。
	業務改善・働き方改革	直後プランの実施と高校との連携による計画的な業務遂行	見通しをもつことにより、情報共有・協働しながら計画的に業務遂行し、業務削減や効率化につなげる。	①行事が終了した時点で反省・改善を行い、次年度の計画を立案する。 ②業務担当者とその方法を明確にし、高校と情報共有しながら業務遂行する。	B	【成果】 幾つかの業務内容を中高で見直し共有することで、業務削減や効率化につなげることができた。 【課題】 直後プランの実施がスムーズにできなかった。 前年踏襲でなく、今まで以上に中高で情報共有することが働き方改革につながる意識をもつ必要がある。

学力向上	質の高い授業の工夫と実践	将来の学びに通じる授業の実践	質の高い授業を実感できる生徒が9割以上にする。	①先取り学習、高校職員による講座、探究活動や模擬試験、検定等の充実に取り組む。 ②ICT機器を効果的に活用した授業改善と個に応じた教材開発に取り組む。	A	【成果】 日々の教科の授業や総合的な学習の時間、教科の専門性を発揮した講座等の取組を行い、95%を超える生徒が工夫された質の高い授業が行われていると実感している。 【課題】 ICT機器の効果的な活用については、工夫の余地があった。
	個に応じた学習指導の工夫改善	一人一人に達成感のある学習指導の実践	一人一人に応じた学習指導を実感できる生徒が9割以上にする。	習熟度別授業クラスの実践と個々の学力に応じた個別指導の実践に取り組む。	B	【成果】 ノート添削など各生徒への丁寧な指導を行い、生徒の9割近くが一人一人に応じた学習指導を実感することができた。 【課題】 今年度も職員不足等教員側の事情により、数学や英語の習熟度別授業を十分に行うことができなかった。
中高一貫教育	中高6年間を見通した教育活動の充実	中高連携の充実と協働	生徒の現状と高校のグラデュエーションポリシーを踏まえた指導体制の充実を図る。	①単元配列表を作成し、中高における学びの連続性を踏まえた教科指導を実践する。 ②中高職員による職員研修を複数回実施し、6年間の指導体制をブラッシュアップする。	B	【成果】 年間6回の職員研修を実施し、テーマ毎に中高職員で現状の整理や実践に向けての協議を行うことができた。 【課題】 指導体制の具体的な充実とブラッシュアップまでは至らなかった。
キャリア教育(進路指導)	将来の夢や生き方を考える機会の充実	自身の未来像を描き大学や職業について考える機会の充実	将来の夢や生き方について考えることができる生徒を9割以上にする。	①中高合同で職業別講話などの進路講演会を実施する。 ②生徒が興味を抱いている職業について調べ学習を行う。	A	【成果】 中高合同での職業講話や大学訪問を通して、自分の将来について広い視野で考えさせることができた。 【課題】 中高でキャリア教育についての情報共有の機会が少なかった。

生徒指導	礼儀を大切にし、自主的・自律的に判断・行動できる生徒の育成	様々な教育活動において自主・自律を育む指導の実践	生活リズム、挨拶や言葉遣い、時間厳守、交通安全、公共マナーなどの指導をとおして、自主的・自律的な言動を確立させる。	①朝の健康観察を行い、健康理解させる。 ②学級活動や全校集会等とおして、礼儀や規範意識について考えさせる。 ③行動の振り返りや意識について、メタ認知を促す機会を設定する。	A	【成果】担任不在時も副担任や主任で健康観察を継続してできた。集会等では、自主、自律について考える機会を設けることができた。 【課題】礼儀について、日常のあいさつに個人差があり継続して指導していく必要がある。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動、部活動をととした主体性の育成	生徒が主体的、計画的に取り組む生徒会活動を確立させる。	①生徒会活動や委員会活動の機会を確保し、内容の充実を図る。 ②計画をもとに、学習と部活動の両立を図れるようにする。	A	【成果】自主的に活動していく力が着実に身に付いている。 【課題】部活動の地域移行をスムーズに進めていくために、玉名市との連携をしっかりとる必要がある。
人権教育の推進	自他ともに大切にするとする人権意識の涵養	差別や偏見に気づきその背景を理解しようとする態度の育成	人権教育の大切さを実感できる生徒を9割以上にする。	①道徳での取組、学級旗製作、人権標語の作成、人権集会の実施など、生徒が自他の人権について考える機会を設ける。 ②掲示物や日頃の言動など言語環境について整備し、意識を高める。	A	【成果】人権作文や人権標語の取組、人権集会を通じて生徒が主体的に活動し、人権感覚を高める活動ができた。 【課題】ブログを活用した情報発信はできたが、地域や家庭への啓発方法については工夫の余地がある。
	「命を大切にするとする心」を育む教育の充実	命の大切さに気づき自他の命を大切にしようとする態度の育成	命の大切さに気づかせる場面の設定と学びを深める返しを深める実践する。	①緊急時の対応について、自助と共助双方の学びを行う。 ②SOSミニレターなどSOSを発信できる環境を整備する。	B	【成果】福祉体験や性教育講演会等を通じて命の大切さを実感させることができた。 【課題】長期休業時に生徒のSOSに気付く体制づくりが課題である。

いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	いじめの本質に気づき、いじめのない学級・学校づくりに貢献できる意識の涵養	生徒一人一人について理解を深め、職員で情報共有を図る。心のアンケート等の実施と適切な対応を徹底する。	① 日常の生徒観察、スコラ手帳等を利用した「生徒の小さな変化や兆し」への目配り気配りを行う。 ② 心のアンケートや教育相談をとおして生徒の状況を細かく掌握する。 ③ 学級旗製作や人権ボランティア委員会等の活動をとおして、「いじめを許さない集団づくり」を行う。 ④ スクールサインや相談窓口の周知を行う。	B	【成果】 定期的なアンケートや、職員での情報共有を密にすることで、いじめの案件についても適切に対応できた。 【課題】 日頃の学校活動で心無い発言があるため、聞く人のことを考えながら、話すことについての指導が今まで以上に必要である。
特別支援教育	教育相談と一人一人に応じた支援の充実	生徒理解を深め、個別の支援等の実践	生徒理解について情報を共有し、個別の支援体制の確立と実践を行う。	① 引継事項等に基づき、特別な支援を要する生徒を把握し、職員間で情報共有を行う。 ② 教育相談やアンケートによる生徒の困り感の把握をする。 ③ 不登校や別室登校等に応じた支援についてSCを含めた会議を学期に1回行う。	A	【成果】 毎月の職員会議で生徒についての共通理解を行うことができた。 SCを含めた会議を実施し、助言を生かすことができた。 【課題】 別室登校や不登校の対応が担任任せになっており、より組織的な対応が必要である。
学校保健・学校安全	安全な学校づくり及び自ら健康で安全な生活を実践できる生徒の育成	安全な学習環境の確保と健康的な教育活動の支援	学習環境の整備により、ケガや事故等を未然に防止する。心身の健康保持、自己肯定感の高揚により、自他共に育つ姿を目指す。	① 定期環境衛生検査や日常点検を行う。 ② 学活、保健委員会活動、保健だよりの発行等とおして健康教育に関する意識を高める。 ③ ストレス対処教育などを実践し、良好な対人関係の構築を図る。	A	【成果】 健康診断や環境衛生検査等、計画通りに実施できた。 95%を超える生徒が健康保持・増進のための指導を実感している。 【課題】 自己肯定感を高めるために、日々の活動の中でレジリエンスや互いを認め合う取組を積み重ねることが必要である。

環境教育	環境について気づき・考え・行動ができる生徒の育成	省エネや環境保全に自主的に取り組む態度の育成	生徒自身で、教室の環境整備に取り組み、環境ボランティア活動やリサイクル活動を企画・実践できる。	①生徒会が主体となり、SDGsを意識した学校版環境ISOの取組を推進する。 ②日常の清掃活動に力を入れる。 ③花壇コンクールなどを通して環境について考え、実践する力を養う。	A	【成果】 花壇コンクールや美化コンクールを通して、環境について考える機会を設けることができた。 約95%の生徒が環境保全を考え、行動できるための指導を実感している。 【課題】 SDGsやISOについて、呼びかけなどの啓発活動が少なかった。
情報教育	情報リテラシーの涵養	将来にわたって有用な情報活用能力の育成	高校と連携を図りながら、各学期1回以上の情報モラル講演会等を計画・実施する。	①技術家庭での基礎的な学びをはじめとし、他教科や総合的な学習の時間でICT活用を推進する。 ②Chromebookを積極的に活用し、授業や講演会などで学んだ内容を身につけさせる機会を増やす。	B	【成果】 各教科で日常的にChromebookが活用されており、生徒のICT活用能力が高くなった。情報モラルに反する事案もなかった。 【課題】 CBTが利用できる環境があっても職員が積極的に利用する状況に至っていない。個に対応できるため、活用を促していく必要がある。
読書指導	読書による豊かな感性の育成	読書に親しみ、豊かな感性と幅広い知識を身に付ける。	読書の充実及び図書館利用に肯定感を持つ生徒を9割以上にする。	①図書委員会の活動内容を充実させ、その推進を図る。 ②図書館終礼や図書館だよりの発行により読書活動に関する啓発を行う。 ③読書感想文・感想画の取組や各教科での読書紹介などの取組を行う。	A	【成果】 図書委員が選出した「本の福袋」を作ったり、図書館終礼を奨励したりして貸出率の向上につながった。 読書感想文・読書感想画に全員で取り組み、多くの生徒が入選した。 【課題】 昼休みや放課後等の開館時間を確保し、貸し出ししやすいようにする。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	保護者や育友会との連携	各種の通信・学校HP、授業参観等を通じた保護者との連携	学校との連携に肯定感を持つ保護者を9割以上にする。	①学級通信の発行のほか、HPの「附属中ブログ」で常に情報発信を行う。 ②授業参観、学年保護者会等を実施することにより、学校の取組や生徒の様子を保護者に伝える機会をつくる。	A	【成果】 担任は毎週末学級通信を発行し、HPのブログでも学校や生徒の様子を随時情報発信することができた。 授業参観、学年保護者会も実施することができ、約94%の保護者が学校と育友会の連携を実感している。

						【課題】 授業参観について 計画と周知が遅れた。
	開かれた 学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニケーション・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けての検討を重ねる。	年間2回以上、 学校運営協議会を開催し、各委員から幅広く意見を伺い、 学校運営にいかす。	B	【成果】 職場体験の実施やボランティア活動で小学校や保育園と連携することができた。 【課題】 学校運営協議会委員から幅広く意見を伺う機会の工夫が必要であった。

4 学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がとても落ち着いて学校生活を送っている様子が見える。引き続き、安心・安全を第一に、充実した教育活動を展開してほしい。 ・生徒アンケート、保護者アンケート共に概ねよいため、今後さらに今以上の成果を期待したい。また、職員アンケートの結果が生徒・保護者アンケート程ではないため、目標達成できる取組をお願いしたい。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、多くの生徒がマスクを外すようになり、生徒の豊かな表情が垣間見え、学校全体が明るく感じられるようになった。特に体育祭のダンス時に見られた表情は素晴らしかった。 ・本校の最大の魅力は、全日制、定時制、附属中学校が並置されていること。それぞれの特徴がうまく関わり合い、生徒たちがさらに成長できる学校となるようしっかりサポートしていきたい。
-----------	---

5 総合評価	<p>令和5年度の本校教育スローガンは『「健康・礼儀・努力」～何事にも一生懸命頑張る玉附生～』とした。</p> <p>今年度の学校評価表における各項目（18項目）の評価は、A：10項目、B：8項目、C：0項目、D：0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・職員の学校評価アンケート及び学校関係者評価においては概ね高い評価を得ることができた。今後も教育目標の実現に向けて、テーマである「夢実現・未来への挑戦」をキーワードに併設型中高一貫教育校として様々な教育実践に努めていきたい。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学校行事を制約のない形態で実施することができた。過年度に比べ、学校評価における生徒の満足度は高く、様々な教育活動で生徒自身の活動も活発になったことや、今年度高校が創立120周年を迎えたことで式典などを通じて改めて本校の歴史を感じることができたことなどが要因の一つにあると考察することができる。</p> <p>また、「本校に入学してよかった。」の項目では肯定的な評価をしている生徒が95.2%、保護者が96.4%と、両者ともおおむね高い評価を得ており、本校の教育活動に対して信頼を得ているものとする。</p>
--------	---

6 次年度への課題・改善方策	<p>学校評価アンケートの「個に応じた学習指導の工夫」について、生徒の11.9%、保護者の15.7%がやや否定的な評価をしているのに対し、職員全員がほぼ目標を達成できたと肯定的な評価をしている。この認識の差を真摯に受け止め、教材研究、授業実践を行う中で、今まで以上に生徒に寄り添いながら、協働的な学びと個別最適な学びの在り方などについて具体的な実践を強化していく必要がある。</p> <p>また、「中高6年間を見通した教育活動の充実」について職員の1名が目標を達成できなかったと回答した。高校職員のアンケートでは22.6%が否定的な回答をしていることから中学校職員と高校職員間でも認識に差があることがわかる。今年度は職員研修を複数回実施し共通理解を図るにとどまったが、次年度以降は6年間を見通し、連携した指導体制を構築する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学校行事などコロナ禍以前に戻りつつあるが教育的効果を十分に検討したうえで、教育活動の精選・統合などの取組をとおして業務改善と働き方改革の推進につなげたい。</p>
----------------	---